

令和3年度

第14回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和3年10月22日（金）  
開会14時5分 閉会14時44分

場 所 教育委員室

令和3年度  
第14回大分県教育委員会

**【議 事】**

(1) 議 案

第1号議案 令和4年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について

(2) 報 告

① 科学の甲子園ジュニア大分県大会2次予選の結果について

② 読書活動の推進について

(3) その他

## 【内 容】

### 1 出席者

委 員	教育長	岡 本 天津男
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	高 鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
事務局	教育次長	渡 辺 登
	教育次長	久保田 圭 二
	教育次長	米 持 武 彦
	教育改革・企画課長	重 親 龍 志
	教育人事課長	大 和 孝 司
	義務教育課長兼幼児教育センター所長	武 野 太
	社会教育課長	後 藤 秀 徳
	教育改革・企画課 主幹 (総括)	門 野 秀 一
	教育改革・企画課 主査	末 松 敬 雅

### 2 傍聴人

1 名

## 開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、議題ごとに、関係課長のみ入室しますので、よろしくをお願いします。

(岡本教育長)

それでは、ただ今から、令和3年度第14回教育委員会会議を開催します。

## 署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、岩崎委員をお願いします。

## 会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は14時40分を予定していますので、よろしくをお願いします。

## 議 事

### 【議 案】

#### 第1号議案 令和4年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第1号議案「令和4年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について」提案しますので、教育人事課長から説明をしてください。

(大和教育人事課長)

人事異動方針と、それに基づく人事異動実施要綱につきましては、公立学校教職員の標準的な在職期間、任用に関する基準等を、任命権者である大分県教育委

員会が規定するものです。

資料2ページをご覧ください。

始めに、平成21年度以降の人事異動方針等の変遷について、説明します。

平成21年度には、平成20年度の不祥事を受け、人事異動方針を全面改定し、教職員人事に関する情報管理の徹底、職員団体や教育団体等の外部からの要請排除、人事異動実施に係る留意事項の見直しなどを行いました。

また、平成23年度には、それまでの「教職員人事計画」を廃止し、人事異動方針に基づく「人事異動実施要綱」を新設し、それ以降は、教職員が切磋琢磨する環境の醸成、人材の育成と活用、校長のリーダーシップの確保、教職員の意識改革等を進めるために、毎年度見直しを行ってきたところです。

それでは、令和4年度人事異動方針案について、説明します。資料の3ページから7ページまでに、人事異動方針案と実施要綱案を添付しておりますが、8ページ以降の新旧対照表で説明します。

資料8ページをご覧ください。

人事異動方針の新旧対照表で、左側が現行の方針、右側が令和4年度の異動方針案です。資料8ページについては、特に変更点はありません。

資料9ページをご覧ください。

「第3 副校長、主幹教諭、指導教諭の配置」の項目ですが、教頭採用資格保有者選考試験の第1次合格者から、教頭に任用されない者を主幹教諭に任用することとします。これは、主幹教諭選考試験を廃止することに伴いまして、主幹教諭を一定数確保するための見直しです。

次に、「第4退職」の「2 再雇用制度」ですが、優れた学校経営の取組や経験の継承を促進するため、今年度に引き続いて、再任用校長を配置したいと考えております。また、新たに、「3 定年の引き上げ」を追加し、令和5年4月1日に改正地方公務員法が施行されることに伴い、制度構築を図っていきたいと考えております。

次に、資料10ページをご覧ください。

「人事異動実施要綱」の新旧対照表ですが、変更点は、「2 異動基準」の「(5)新採用教職員人事」の③の部分、「平成24年度以降の」という不要になった字句の削除を行うのみで、特に内容についての変更はありません。

以上、ご審議のほど、よろしく申し上げます。

(岡本教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。

ご質問・ご意見はありませんか。

(岩崎委員)

平成20年度の事件の後、新しい人事異動方針が制定されましたが、ずいぶん定着してきたと思います。

再任用校長の制度など、平成20年度の不祥事を反省し、改革を継続してきま

したが、大分県教育委員会が一定の裁量を持つようになったことは、非常に時宜を得た見直しだと考えていますので、是非、この方針でやっていただきたいと思っております。

一つ質問ですが、教職員の広域異動について、大分県教育委員会としては、特に、小・中学校で必要であると考え、学校現場においては一部反対意見もある中で強く推進してきたという経緯があります。

現在、学校現場においては、教職員の広域異動については未だ反対意見があるのか、それとも皆さんからご理解いただいている状態となっているか、状況を教えてください。

(渡辺教育次長)

広域異動につきましては、岩崎委員のご発言のとおり、特に、小・中学校教職員において、採用から10年未満で、3地域を経験するという形の取組を進めてきました。取組を進める中で、当初は原則3年としていたものを、2地域目以降は、状況によっては4年というような弾力的な運用をすることや、採用前の臨時講師歴が長い方は、1地域経験したとみなすなどの見直しをしてきています。

こういった中で、やはり周辺部、地元出身の教員が少ない地域の教育長からは、「この取組をやっていただかないと地域の教員が確保できない。」とのお話があるなど、全体としては理解をしていただいていると思っております。

もちろん、若手教員の中には、「いろいろ大変だ。」というようなご意見があることも把握しております。しかし、より多くの経験を積んでいただきたいことから、引き続き推進していきたいと思っております。

(林委員)

通勤が非常に長距離になってしまうなどについて、宿舎を含めて、十分に準備されていると考えてよろしいですか。

(渡辺教育次長)

宿舎等については、職員住宅等の整備はなかなか難しいところですが、個人的な事情、例えば、結婚などについて、配慮しながら対応しており、教職員の個々の情報を見ながら配置を決めています。

(林委員)

現在、高速道路の整備が進んできているので、長距離の通勤などになる可能性もあるかもしれません。全てを考慮することはできないかもしれませんが、できる限り近くに住めるような配置ができるとよいと思っております。

(岡本教育長)

他にありませんか。

それでは、第1号議案の承認についてお諮りします。承認される委員は、挙手

をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第1号議案については、提案のとおり承認します。

## 【報 告】

### ① 科学の甲子園ジュニア大分県大会2次予選の結果について

(2課〔教育改革・企画課、義務教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「科学の甲子園ジュニア大分県大会2次予選の結果について」義務教育課長から説明をしてください。

(武野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

「令和3年度科学の甲子園ジュニア大分県大会」の2次予選の結果について、報告します。

この大会は、中学生の科学に対する興味・関心を高めるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成することを目的に、全国大会の代表校選考も兼ねて、平成25年度から開催しています。

今年度につきましては、1次予選を8月4日に、2次予選を10月2日に開催しました。

資料の「内容」の欄をご覧ください。

1次予選は、13校30チームが参加し、1チーム6人で、数学や理科の筆記問題に協働して取り組みました。また、元JICA専門科 坪井 達史 氏による講演も実施しました。

2次予選は、1次予選を突破した9校13チームの生徒が実技競技に挑みました。競技内容は、A4用紙を使って、落下物を安全に着地させられる構造物を作成します。作成した構造物の上におもりの入ったカプセルを投下し、投下したカプセルが、床面から20cmの高さにキープできていれば成功となり、得点が与えられます。得点は、カプセルに入れるおもりが重いほど、投下させる高さが高いほど、また、使用した紙の枚数が少ないほど高くなります。この課題は、事前に参加校に提示しており、製作材料も提供しました。大会までに、各学校ともいくつもの構造物を製作し、改良を重ねてきました。

結果は、1次予選と2次予選の総合得点で決まり、平松学園向陽中学校Bチームが最優秀賞に輝き、全国大会に出場する大分県代表に決定しました。優秀賞以

下は、資料に記載しているとおりです。なお、11月16日には、全国大会出場壮行会を予定しています。

実技競技終了後は、京都大学 特定助教 樋口 雅一 氏による、1人1台のタブレットを活用したクイズ形式の講演会を実施しました。

資料の下にある「生徒感想」の欄に記載のとおり、「仲間と一緒に色々なものを作り、親睦を深めることができた。講演会もこれからの自分の人生に大きく役に立つと思う。参加して良かった。」「みんなで1つのことに向かって取り組むことが『こんなにも楽しいのか』と思った。もっと科学について知りたいなと思った。」とあります。このような内容が他にも沢山見られました。答えのない課題に対し、本やインターネットなどで調べたり、友だちと議論したりしながら試行錯誤する中で、科学に対する興味・関心が高まるとともに、協働して課題を解決することの楽しさや大切さに気づいたようでした。

以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(林委員)

出場校が13校30チームということですが、大分市、別府市以外の学校が参加することは難しいのですか。

また、坪井先生の講演は、非常にインパクトがあると思います。子どもたちはもちろんですが、必要な人には後で、「YouTube」を利用して配信することなども考えた方がよいのではないかと考えています。パスワードをつけてもいいと思います。

(武野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

ありがとうございます。まず、1点目の大分市と別府市以外の学校の参加ということですが、実は、一昨年の大会では日田市の学校が3校参加していました。しかし、今年度は、コロナ禍の中での開催となったということもあり、参加を見合わせようです。それまで4年間、続けて参加していましたので、来年度は、再度、県下全体の参加について、働きかけたいと思います。

(林委員)

是非、お願いします。

(岡本教育長)

この大会を実際に見学しました。他の地域の生徒も参加していたと思うのですが、大分市と別府市以外の学校から参加はありませんでしたか。



(武野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

大会当日は、日程を圧縮し、「科学の甲子園ジュニア大分県大会」の後に「生徒の学びに向かう学校作り」も実施しました。この「生徒の学びに向かう学校作り」については、他の地域の学校からも参加者がありましたが、「科学の甲子園ジュニア大分県大会」の参加については、大分市と別府市の学校のみでした。

2点目の「YouTube」等での配信ですが、樋口先生の講演につきましては、1次予選で敗退したチームも、WEB会議システムを使って、オンラインで参加することができました。クイズにも一緒に答えており、先生ご自身が作った景品を参加生徒に配りましたが、オンラインで参加した学校にも配っています。

生徒たちは、とても楽しみながら将来のことを考えているように見えました。

(林委員)

坪井先生は、世界的なJICAの専門家であり、かつ、山香町出身ということなので、是非、知ってほしいと思います。

(岡本教育長)

記録映像はありますか。

(武野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

残念ながら記録はしていませんが、参加した校長先生で、坪井先生の話聞き、自らの学校の生徒全員に聴かせたいということを知りました。

(林委員)

そういうこともあると思います。全国各地で講師として呼ばれているので、大分県の方々にも聴いてほしいと思います。

(米持教育次長)

当日、講演会の終わりの方で、「JICAにこれから行ってみたいと思いませんか。」という質問がありました。女子生徒が数名手を挙げて、その後、連絡先を聞くために、名刺の写真を撮っていました。これからの将来を考えた生徒もいたのかなと思いました。

(高橋委員)

やはり、日本で基礎科学を勉強するということは、世界でもトップレベルだと思います。今、大学生で基礎科学を学ぶ人が少なくなっています。そういう中で、中学生で学ぶ意欲を持っている方がいることがわかり、うれしく思います。そういう子どもたちを集めて、自分たちが研究したことをオンライン形式でのディスカッションみたいなことを県内でしてほしいと思います。そういうことは、できないでしょうか。

(武野義務教育課長兼幼児教育センター所長)

貴重なご意見、ありがとうございます。科学に関することではないのですが、県内の中学校で、自分たちの故郷について調べたことを、オンラインで発表会をしました。科学に関しても、高橋委員からご意見をいただいた、ディスカッションなどについても、おそらく可能なので、今後、検討していきたいと思います。

(高橋委員)

是非、お願いしたいです。一人一人が考える研究と、ディスカッションなどから気づくことがたくさんあります。是非、将来の夢につながるよう、よろしくお願いします。

## **② 読書活動の推進について**

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第2号「読書活動の推進について」社会教育課長から説明をしてください。

(後藤社会教育課長)

「読書活動の推進について」説明します。

資料をご覧ください。

まず、不読率についてです。これは、数値が低いほど、本を読む児童生徒が多いことを示すものですが、小学校・中学校ともに全国に比べて数値が高くなっており、また、全国・本県ともに学年が上がるにつれて数値は高くなる傾向にあります。

また、本を読まない理由のアンケート調査をしたところ、「何を読んでいいのかわからない。」「読みたい本がない。」「勉強や部活動、塾などで忙しい。」という回答が見られました。さらに、保護者が幼少期の頃に、読み聞かせを行っていないなど、子どもに読書の楽しさを積極的に伝えていない状況が見えてきました。つまり、不読率が減少しないのは、児童生徒の身近な場所に、子どもたちが関心を持つような図書の情報不足していること、それから幼少期の子どもを持つ保護者への働きかけが不足していたことが原因ではないかと分析しました。

では、その具体策としての「読書だいすき大分っ子育成事業」について、説明します。

1つ目の取組である「おうち読書スタートアップ事業」は、今年度からの新たな取組で、就学前の子どもへの保護者を対象に、幼少期からの家庭読書の啓発を行うものです。この取組では、まず、「おおいた子どもの本のページ」というホームページを開設し、そこに、乳幼児向けにおすすめをする本や市町村立図書館の

イベント情報などをアップしています。また、こちらのホームページの広報リーフレットを、保育園や幼稚園、乳幼児の健診の会場で配布して、PR活動をしているところです。

「本との出会いひろば」は、通常、図書館で行われることの多い読書イベントを、図書館ではなく、商業施設で実施し、買い物に来た親子で読書に興味がない方に対して、PRをする企画になります。8月7日に、中津市のイオンモールにおいて、推薦本の展示や大学生によるパネルシアターなどを実施しました。また、10月5日に、日出町の保健福祉センターで開催したところです。

2つ目の「子ども司書育成事業」では、県下の小学5・6年生を対象に、県立図書館を会場にして、一年間かけて図書館の仕事や読み聞かせ、本の紹介カードの作成についてなどを学ぶ講座を開催しています。講座を通じて、地域や学校の読書リーダーとなる「子ども司書」を、過去5年間で368名育成してきました。認定後の子どもたちには、学校などで読書推進のために活躍してもらいたいということで、実施している取組になります。

3つ目の「中・高生ビブリオバトル大分県大会」については、昨年度の大会の様子の映像を用意していますのでご覧ください。

#### 【映像による紹介】

4つ目は「小・中学生 ほんラブ事業（小・中学生読書活動活性化事業）」です。この事業では、まず、おすすめ図書のリストを掲載した読書記録ノートである「読書日記」を発行し、読みたい本がないという子どもたちに対して、おすすめの本の情報を提供しています。こちらを使ってクラス内で本の感想を共有している学校もあります。

また、小学校・中学校の各4校をモデル校に指定し、おすすめ図書セットの貸出や、司書に対するアドバイザーの派遣を行っています。おすすめ図書は、映像化されたものなど、比較的、読みやすい内容のものを準備しております。各学校の学級文庫などに設置してもらい、子どもたちが気軽に本に触れられる機会を増やすようにしています。アドバイザー派遣については、各学校に一人配置で、困りを抱えている学校司書に対して、図書館のレイアウトや図書委員会の活性化などについての指導助言を県教育委員会の司書が行っています。このような取組の結果、モデル校では、不読率の減少が見られました。

以上、じっくり時間をかけて家庭での読書習慣を確立すること、それから、学校や公共図書館において、短時間で直接、子どもたちへの読書活動の支援をすること、この両面で不読率の改善を図り、読書を通して、子どもたちの豊かな心の育成をしていきたいと考えているところです。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

「子ども司書」を育成する講座に参加しているのは、もともと本の好きな子ども

もで、あまり本を読まない子どもは参加していないと思います。普段、図書館に行くことがないような子どもに対して、どのように働きかけをすればよいか考える必要があるのではないのでしょうか。

「読書日記」については、楽しく読書習慣を身に付けるうえで、良い案だと思います。

(後藤社会教育課長)

ご指摘のとおり、「子ども司書」を育成する講座に参加している子どもは、もともと本が好きな子どもです。当課では、講座に参加した子どもたちに、学校で図書委員の活動などを通じて、講座で学んだことを生かしてほしいと伝えています。

本を読むことが苦手な子どもには、「小・中学生 ほんラブ事業」によって、映像化された本など、子どもたちが関心を持ちやすく、手に取りやすい内容のものを貸出しています。

(岡本教育長)

事業担当から補足はありますか。

(江藤主任〔社会教育課〕)

「子ども司書」を育成した後、どのように活用していくかは課題だと考えています。

「子ども司書」の卒業生の中には、中学生になってからも、学校での活動ががんばってくれている児童もいますので、そのような意欲のある児童を少しずつ増やしていき、各学校で活躍してもらえればと考えています。

(高橋委員)

障がい等で、文字の読み取りなどに困難を感じる子どもがいると聞いたことがあります。読書推進の取組をしていく中で、そのような子どもに対する支援はしているのでしょうか。

(米持教育次長)

文字の読み取りなどに困難を感じる子どもについては、現在、デジタル教科書の読み上げ機能等を活用した支援を行っているところです。

冒頭の説明にあった「不読率」のことについて補足します。全国値より高い状況にあるということでしたが、これは調査の質問方法の関係で、自分で好きな本を選んで読んだことのみを「読書」と認識している子どもが多いことが影響しているものと考えられます。実際は、どの教科においても、調べ学習等を通して、様々な本が取り扱われており、学校の中で全く本を手にとらないという子どもはいないものと思われます。ただ、教科書のみを読むという教育が残っているところもありますので、教科書以外の本にも触れるカリキュラムづくりをするよう、

指導を行っています。

現在の子どもたちの状況を見ますと「忙しくて図書館に本を借りに行くことができない。」「図書館に行っても何を読めばいいのかわからない。」という考えの子どもが多いようです。このような状況を改善するためには、教員が「次はこんな本を読んでみよう。」と働きかけたり、ビブリオバトルのように本を紹介し合ったりすることで、子どもに本を読みたいと思わせることが有効ではないかと考えます。

(高橋委員)

「平和と戦争」のような大まかなテーマを決めて、「今回は、みんなでこれを読もう。」と、子どもたちに働きかけるといってはいかがでしょうか。

(米持教育次長)

そのとおりです。学校司書と教員が連携して、授業で取り扱うテーマの本を並べたコーナーを図書館内に作っておくといった方法などが考えられるのではないかと思います。

(鈴木委員)

豊後大野市図書館が、改築に合わせて「図書館通帳」の発行を始めました。このことが、子どもたちが図書館に足を運ぶきっかけになっているようです。小学生だけでなく中学生についても、電車を使用して図書館へ来館しているそうなので、この取組は大きな効果を挙げていると思います。そういった良いところを県内の関係者の皆さんで共有していただきたいです。

(岩武委員)

「読書日記」は、とても良い取組だと思いました。この中には面白そうな本がたくさん掲載されていますが、大分県の民話の本などはないように思います。子どもたちに、地域に愛着を持ってもらえるよう、次回の更新の時には、そのような本を入れてもらえればと思います。

一つ疑問なのは、今年度のビブリオバトルがオンラインで開催される予定という点です。新型コロナウイルス感染症が今の状況であれば、オンラインでなくてもよいのではないのでしょうか。やはり、対面でその人の気持ちを直に感じるものが大切だと思いますので、本当にオンライン開催でよいのか検討いただきたいと思います。

(岡本教育長)

さきほど紹介にありましたHPで本の紹介を掲載しております。こちらは随時更新とのことですので、そちらで取り入れてもよいと思います。

(江藤主任〔社会教育課〕)

わかりました。「読書日記」についても、次回の更新時に内容の見直しを行いたいと思います。

(後藤社会教育課長)

岩武委員からご指摘のあった、ビブリオバトルのオンライン開催については、県大会は全国大会の予選を兼ねていることから、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況にあっても何とか開催しようと、オンラインで計画をしました。もし、これから変更ができるようであれば、対面での開催をしたいと思いますが、できない場合は、オンラインでの開催をご承知いただければと思います。

(岩武委員)

わかりました。

(林委員)

「読書日記」の高学年用(小学校5・6年生用)で「モモ」という本が紹介されていますが、これは、三浦 梅園の哲学にも通じるところがあるという研究者がいます。そのようなことも紹介文に盛り込むと面白いのではないのでしょうか。

(高橋委員)

子どもたちは、本に直接触れる機会を得れば、本を好きになると思います。本を好きになることは、子どもたちが学校の勉強から離れた時にも役に立つのではないのでしょうか。

(岩崎委員)

モデル校の「不読率」に関するアンケート結果には、桂陽小学校の記載がないのはなぜでしょうか。

(後藤社会教育課長)

桂陽小学校のデータは、集計が間に合いませんでした。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

(岡本教育長)

それでは、これで令和3年度第14回教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。